

小学生高学年の部



世界にとどけ、安全な水

東松島市立矢本東小学校 4年 櫻井 あいる

先日、私は自主勉強でSDGsについて学習しました。そしてSDGsの17の目標をひとつひとつ中身を見ていきました。見ていくと1つきょう味を持った目標がありました。

それは「目標6 安全な水とトイレを世界中に」です。私たちは安全な水やトイレが当たり前あるので最初この目標を見た時、あまりピンときませんでした。しかし、少し考えると安全な水とトイレを世界にとってどんな目的なんだろう。世界には安全な水やトイレがなくて生活している人達は、どんな生活を送っているのだろうと考えました。そこで私はこの目標について調べてみようと思いました。

世界では、毎日約5千人の子ども達が安全な水を飲めず命を落としてしまったり病気に苦しんだりしています。その子ども達の1人、アフリカに住む「ルーシー」のエピソードがありました。ルーシーは小学生の時から、家の水汲みを担当していました。彼女の家から水源まで往復10キロメートルもあり、毎日炎天下の中、重いバケツを抱え往復していました。さらに汲みに行った水もごみや病原菌で汚染されていて、ルーシー達はひんぱんに下りや病気に苦しめられていました。

このように危険だと分かっているながらも飲まざる得ない人々が世界にはたくさんいるのです。今まで私はこのような人達の事を知る機会があまりなかったので大きくショックを受けました。

さらに、社会科の授業で私たちがいつも使うきれいな水や使った水はどこから来てどこに行くのかなどについて学びました。川の水は、浄水場でゴミや菌を取りのぞいてきれいな水になります。また、使った水は下水処理施設へ行き、同じようにゴミを取りのぞいて検査し、またきれいな水に生まれ変わります。日本は使う水も使った水もとてもきれいにできる技術があること、安全な水をつくるのに手間と時間をかけているということであらためて知ることができました。

今まで私は水遊びやプールで遊んだ時にも水を使っていたので、私たちの生活に水があるのは当たり前だと思っていました。時には水を出しっぱなしにしていたこともありましたが、きっとそんな私を見たらルーシーはおこるでしょう。

「どうしてそんなきれいな水をむだにするの？私達は家から水源まで何キロメートルもかけて、その水ですら飲めば命を落とすかもしれない水だというのに。」と。

私はこのように考えました。もし私がルーシーだったら、今までの便利な生活から不自由な生活になったら、たえきれなくなり死んでしまうと思いました。他の国では安全な水がとどいていない国もたくさんあるけれど、私達のもとには、きれいな水がとどいていることに感しゃして、水を大切にしようと思いました。

この作文を書いたことをきっかけに、自分の生活を振り返ることができ、水のありがたみを感じることができました。これからは、水を出したままにしないこと、友だちに、安全な水がなく不自由な生活を送っている人達がいるということを発信していくことも心がけたいと思います。そして、私たちはきれいな水を使っているありがたさとこのような人々の存在を忘れずに生活していこうと思います。

世界には安全な水がとどいていない国は2021年の今でもまだまだたくさんあります。その国々に早く安全な水がとどくことと、ルーシーのような子ども達が減ることを願います。

そして、日本の安全・安心な水を管理してくれているみなさんに感しゃしたいと思います。